Project	地域協働専攻　地域環境科学グループ
31	**函館山自然環境保全プロジェクト**
メンバー	［学　　生］　横倉　徹 ／ 丸山　貫太 ／ 佐々木　僚 ／ 石川　傑人 ／ 岩舘　圭汰 ／ 宮垣　知典 ／ 齋藤　匠 ／ 樋口　大雅 ／ 分道　羽優
	［担当教員］　村上　健太郎

【背景】

1. 現在、日本の生物多様性に負の影響を与える要因の一つとして、開発や乱獲・盗掘などの人間活動が挙げられている。
2. 函館山は要塞だった過去があり、当時は一般市民の立ち入りが禁止されていたことから、豊かな自然環境が残されてきた。しかし、近年は、登山者による野生植物の踏み込み（踏圧）や盗掘、切り取りの被害が増加しており、問題となっている。
3. 貴重・希少な野生植物ほど、踏み込み等の人為的撹乱に弱いことが多く、函館山から絶滅する可能性があると考えられる。

【目的】

・函館山における身近な環境問題を把握し、それらについて市民に周知すること。
・函館山の魅力を発信すること。

【概要】

函館山の環境保全につながる活動として、踏圧・盗掘問題の周知、および、それらに対して注意喚起するためにポスターを作成し、掲示した。また、ソーシャルネットワーキングサービス（SNS）を介して函館山の魅力を発信し、ポスターの宣伝を行った。

【プロセスと成果】

【写真1】函館山ふれあいセンターが実施したチラシ配布に参加したときの様子(函館山登山道入り口で実施)

【写真2】後期に行われたフィールドワークで林床植物の盗掘や踏圧について確認している様子

前期は、函館山に生育する野生植物に影響を与えている問題を確認するために、函館山への現地調査を行った。また、函館山ふれあいセンター（函館市住宅都市施設公社）の協力のもと、同施設職員の山口涼子氏とのミーティングを実施し、函館山での環境問題について学修した。更に、同センターが実施した「野生植物の盗掘・切り取り撲滅キャンペーン」でのチラシ配布に参加し（写真1）、野生植物と人との関係に関する問題について認識し、市民への注意喚起の必要性を感じた。このチラシ配布には3日間参加させていただき、函館新聞（報道の記録・P99に記事掲載）や北海道教育大学函館校のウェブサイト（トピックス・7月14日）に掲載された。6月には、SNSの一つであるInstagramへの投稿を開始し、月に1回のペースで活動の様子を投稿するなどした。函館山山頂からの写真や日の出の動画投稿も行ったが、特に日の出の動画再生が多く、計455回再生された。

後期は、函館山の魅力をInstagramで投稿するため、あるいは林床植物と人との関わりについて考えるため、函館山のハイキングコースのうち、「七曲りコース」「汐見山コース」「観音コース」の3コースを歩いた（写真2）。また、その時の様子や、そのコースならではの景色の写真をInstagramに投稿した。投稿の際、興味を持ってもらえるようにオススメ度や実際に登った人の感想をもとにしたコメントを付けた。最終的なInstagramのフ

ォロワー数は135人、いいねの総数は164であった。
　また、前期に話し合った函館山での盗掘や切り取り、踏圧等に関する問題を周知するために、B3サイズのポスターを作成した（写真3）。一つの絵で、盗掘・踏圧・切り取り・立ち入り禁止場所への侵入について表現し、親しみやすい見た目や絵柄にするなどの工夫を凝らした。ポスターは、函館山ふれあいセンター、亀田交流プラザ、函館市青年センター、シエスタハコダテ4階、函館市地域交流まちづくりセンター、函館市役所、函館校（3箇所）の計9か所に掲示した。本学以外の場所に掲示する際には、可能な限り、掲示を許可していただいた施設の職員・担当者から聞き取りを行って、ポスターの出来具合などについて、意見を伺うようにした。

【写真3】作成した函館山の野生植物の盗掘・踏圧等の問題を周知するためのポスター

【総括と反省・今後の課題】

　前期は、函館市住宅都市施設公社が実施した「野生植物の盗掘・切り取り撲滅キャンペーン」のチラシ配布に参加し、登山者に直接チラシを配ることで啓発活動を行うことができた。また、これらの活動や函館山の様子を撮影し、SNSを通じて、プロジェクトの活動内容や函館山の魅力、環境問題について発信することができた。後期についても、前期より詳細に函館山でのフィールドワークを実施でき、各コースでの景色や魅力を肌で感じたり、要塞跡地を訪れて函館山の歴史を学んだりすることができ、それらの様子についてSNSを通じて発信することができた。函館山での問題を学生間だけでなく、より幅広い世代の市民や函館山利用者に周知するためにポスターを作成し、実際に函館市内の様々な施設に掲示することができた。
　前期の反省としては、現地調査を経て自分たちがどのような活動を行いたいのかを考えて行動するまでには、かなり時間がかかってしまったことが挙げられた。前期から後期にかけてのSNS投稿については、発信情報がコース紹介や風景に偏っていたり、それらの発信先が学生間に留まっていたりしたことが問題と考えられた。ポスター作成については、当初の想定よりも時間を要してしまったため、期末発表までにポスターに関する十分な反応を得ることができなかった。
　今後の課題としては、より多くの人に情報を届けるための工夫と、市民からの意見を取り入れ、函館山の環境保全活動をより良いものにするとともに、広報の手法について、更に検討する必要があると考えられた。

【地域からの評価】

　ポスター掲示施設担当者から伺ったご意見、SNSを通していただいたご意見等を以下に列記した。

- 盗掘がだめだということを知らない人もいると思うので、良い活動であると思いました。
- デザインへの評価も高く、親しみやすさを与えることができていた。
- ポスターについて、話し合ったことがきちんと反映されていたことがよかったと思います。
- デザインを更に改善することや、切り取りについての内容の記載が少ないことが問題と感じた。
- デザインで人を惹きつける点や、一目で何が問題かわかるように工夫されていた点が良いと思った。
- ここで取り上げられた問題は春～夏に多いと考えられるため、函館山の来訪者が多い春期も掲示したい。

【年間スケジュール】

■前期

・5～6月
　函館山に関する調べ学習・フィールドワーク／山口涼子氏とのミーティング／SNS投稿を開始

・7月
　「野生植物の盗掘・切取撲滅キャンペーン」に参加／中間発表会

■後期

・10～11月
　フィールドワーク／ポスターの企画・デザイン・掲示に関する許可申請作業

・12～1月
　ポスターの印刷・掲示／期末発表会